令和2年度 北海道稚内養護学校 第1回学校運営協議会記録

1 日 時 令和2年9月29日(火) 10:00~12:00

2 場 所 北海道稚内養護学校 会議室・視聴覚室

3 式次第

- (1) 開会
・会長挨拶
- (2) 新委員紹介
- (3) 令和元年度学校評価集計結果について
・(教頭より)説明、質疑
- (4) 今年度の学校経営方針について
・(学校長より)説明、質疑
- (5) 授業見学(各部会に分かれて)
・(授業見学後)部会ごとに感想や意見交流等
- (7) 全体交流・質疑
- (9) 閉会
・校長挨拶

4 協議内容(各委員から主な意見)

(3) より

①欠食届の途中変更の不都合とは。

*様式変更は、金銭事故を防ぐためのもので、保護者にも協力していただいている。

②教職員の評価の中で、「関わりが無い」「担当ではない」等の記述については、残念に思う。職員が一同に力を合わせて進んでいけると尚良い

③昨年度の反省を受けての改善は。反省で終わってしまったら意味がない。

*評価項目 11) 新学習指導要領の内容理解~については、研修部が中心となって、内容理解、授業改善に取り組んでいる。成果が見られ、改善に向かっていると認識している。

(5) - 1 学校評価部会より

☆指導の工夫や配慮が見られた点

①PCやTVを用いてキャラクターを表示するなど、児童にとってわかりやすい授業がされていた。

- ②地域の企業から委託された作業を行ったり、中学部で収穫したラベンダーを高等部で製品化したりするなど、地域や学部間の連携がなされているところが良いと感じた。
- ③生徒の実態に合わせて、作業の工程を細分化するなど、指導や教材の工夫が行われていた。
- ④子ども達の頑張っている様子が伝わってきた。想像していたよりも一生懸命で器用に作業をしていると感じた。子ども達も作業を通して達成感や喜びを感じているようだった。

☆新型コロナウイルス感染拡大防止について

- ①高等部は生徒数が多く、授業によっては教室が過密である。予算など課題も多いが不要な備品を整備しスペースを広げるなど、対策が必要ではないか。
- ②教師の数を減らし、質問があるときには、生徒自らが教師へ相談や報告できるような環境を設定することも指導方法の一つではないか。

(5) - 2 地域連携部会より

☆学部間のつながりについて

- ①中学部が育てたラベンダーを使って、高等部が作業学習で製品を作っているのはよい取組だと思う。

☆教員同士の連携の在り方について

- ①会議を行う際に、1対1ではなく、複数で集まるとよい。複数の方が、言葉がまろやかになり、いろいろな意見も出てくる。
- ②企業でも、経営方針を全ての従業員に伝えていくことは難しい。学校では、校長との間に教頭や学部主事などが入ることで、周知しやすくなるのではないかと思う。

☆学校と地域との連携について

- ①地域と連携して行う授業は可能か。稚内大谷高等学校と連携して行ってはどうか。
- ②声問小学校に、作業学習で作った製品を販売しに来てはどうか。
- ③密にならないようにするなど、感染症対策は必要である。